



きほんの講座

① - 1

定員50名

◆カレッジデビュー講座

講座番号 ① - 1

時間：午後6時30分～8時

場所：築地社会教育会館

回数：5回

受講料：1,500円

主題 まなびのコース1年生向けのおすすめ講座です。古典芸能・歴史・美術・音楽など、それぞれの分野で活躍される方を講師にお迎えし、オムニバス形式でお届けします。これまで苦手意識を持っていたり、触れる機会がなかった分野に接して、ご自身の新たな一面を発見してみませんか？

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	10/ 4 (金)	人生100年時代の学び、そして関わり	逸見 敏郎
第2回	10/25 (金)	古典芸能の魅力	重藤 暁
第3回	11/15 (金)	地域史から学ぶ中央区	滝口 正哉
第4回	11/29 (金)	目を鍛える 美術を見る力を養う唯一の方法	富田 章
第5回	12/ 6 (金)	音楽の講義と演奏会	小川 聡

講師紹介

逸見 敏郎 (へんみ としろう)

立教大学文学部教員、臨床心理士、公認心理師。青年期から成人期の心理臨床を長年続けてきている。また「ヒト」として出生し、「人」となり、「人間」として生活するなかでよりよく生き、よりよく死を迎える生涯発達論の観点から個人を捉える視点を大切にしている。最近では個人が社会参加をするなかで、生涯をとおして学び、その学びを地域社会に還元していくことで相互に成長し、よりよい社会を創り上げる可能性に注目して研究をしている。2001年以降、いのちの電話の研修にも携わり、自殺予防のアウトリーチ活動にも参画している。共編著として『リベラルアーツとしてのサービスラーニング—シティズンシップを耕す教育—』、『大学生が会おうリスクとセルフマネジメント』など。

重藤 暁 (しげふじ ぎょう)

伝統芸能研究家、常磐津節演奏家。江戸川大学情報教育研究所客員研究員として、伝統芸能教育について研究している。共著に『歌舞伎・日本舞踊 名曲100選』（淡交社）がある。日本の伝統芸能音楽「常磐津節（ときわづぶし）」にて「常磐津佐知太夫（ときわづさちたゆう）」の名前で歌舞伎座、京都南座、など全国の歌舞伎公演に出演中。

滝口 正哉 (たきぐち まさや)

立教大学特任准教授。早稲田大学教育学部社会科地理歴史専修卒業。博士(文学)。専門は近世都市史・文化史。著書に『千社札にみる江戸の社会』（同成社）、『江戸の社会と御免富一富くじ・寺社・庶民一』（岩田書院）、『江戸の祭礼と寺社文化』（同成社）。編著に『赤坂氷川神社の歴史と文化』（都市出版）など。

富田 章 (とみた あきら)

東京ステーションギャラリー館長、美術史家。慶應大学、成城大学大学院卒。(財)そごう美術館、サントリーミュージアム「天保山」を経て現職。著書に『偽装された自画像』（祥伝社）、『ピアズリー—怪奇幻想名品集』（東京美術）、『印象派BOX』（講談社）、『ゴッホ作品集』（東京美術）、『初老耽美派 よろめき美術鑑賞術』（毎日新聞出版、共著）、訳書に『クリムト』『ゴーガン』（共に西村書店）などがある。

小川 聡 (おがわ さとし)

トランペット奏者、ダックス音楽事務所代表、高松市観光大使。東京藝術大学音楽学部卒業。これまでに、金管五重奏団「Buzz Five」、帝国劇場「レ・ミゼラブル」トランペット奏者、(財)地域創造公共ホール音楽活性化事業登録アーティストを務める。近年は作曲家としても活動し、中央区晴海地区「好きですトリトン!」、高松市サンポート地区「海とサンポート」などを作曲し好評を博している。



◆街歩き楽しみ隊

(9/20、10/11、25、11/29を除く)

講座番号 ①-2

時間：午後2時～4時
 場所：築地社会教育会館ほか
 ※第2回、4回、6回、8回はまち歩き
 回数：8回
 受講料：2,400円

主題 中央区を知り尽くしたまち案内のボランティアが、中央区の魅力をご紹介します。講義の回には、そのテーマの専門の先生方にお話を伺い、その次の回には、講義に関連した地域のまち歩きを楽しみます。あなたもすっかり中央区通になること間違いなし！

企画・運営協力：中央区文化財サポーター協会

※第6回は浜離宮への入園料が別途必要となります。

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	9/13 (金)	【新巻萬円札発行記念】 渋沢栄一と日本の株式市場	森元 憲介
第2回	9/20 (金)	【まち歩き】 兜町・日本橋	文化財サポーター
第3回	9/27 (金)	本の街日本橋と蔦屋重三郎	鈴木 俊幸
第4回	10/11 (金)	【まち歩き】 大伝馬町・室町	文化財サポーター
第5回	10/18 (金)	潮入りの庭～海の自然を活かした江戸の庭園～	竹内 智子
第6回	10/25 (金)	【まち歩き】 浜離宮	文化財サポーター
第7回	11/22 (金)	江戸・東京の演劇史	児玉 竜一
第8回	11/29 (金)	【まち歩き】 京橋・新富町・銀座	文化財サポーター

講師紹介

森元 憲介 (もりもと けんすけ)

東京証券取引所(兼)大阪取引所・金融リテラシーサポート部課長、東京証券取引所主宰「JPX マネ部!ラボ・セミナーマネ部!」講師、ラジオNIKKEI・新規ビジネスグループ・マネージャー。大学卒業後、都市銀行や金融ジャーナリストを経て、2002年から資本市場の企画・運営・広報などに従事。現在、ファイナンシャル・プランナーとして、全国の大学や自治体などが主催するセミナーなどで講師を務める他、青少年向けの「起業教育」も展開。ラジオ局の金融経済関連番組やイベントなどのプロデュースを行うなど、メディアと融合した「投資家のすそ野拡大」に注力。共著に『ファンドマネジメントの新しい展開』(東京書籍)などがある。

鈴木 俊幸 (すずき としゆき)

中央大学文学部教授。中央大学文学部、同大学大学院を経て現職。狂歌・戯作研究の一環として蔦屋重三郎の研究を始め、現在は江戸時代から明治時代前期までを対象として、書籍文化研究を広く(浅く)行っている。主著に『蔦屋重三郎』(若草書房)、後に増補し『新版 蔦屋重三郎』(平凡社)、『江戸の読書熱』『絵草紙屋 江戸の浮世絵ショップ』『江戸の本づくし 黄表紙で読む江戸の出版事情』『近世読者とそのゆくえー読書と書籍流通の近世・近代』(いずれも平凡社)、『蔦屋出版書目』(青裳堂書店)、『書籍流通史料論 序説』『書籍文化史料論』(いずれも勉誠出版)、『信州の本屋と出版—江戸から明治へ』(高美書店)他多数。

竹内 智子 (たけうち ともこ)

千葉大学大学院園芸学研究院准教授。専門は都市緑地政策。東京都に入庁後、東京の緑地計画の研究で博士号を取得。浜離宮恩賜庭園鷹の御茶屋の復元や、芝公園もみじの滝の改修など多くの事業に携わったのち、2020年より現職。共著に「造園学概論」(朝倉書店)、『林苑計画書』から読み解く明治神宮—〇〇年の森』(東京都公園協会)など。

児玉 竜一 (こだま りゅういち)

早稲田大学教授、早稲田大学演劇博物館館長。早稲田大学大学院から、早稲田大学助手、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所、日本女子大学などを経て現職。専門は歌舞伎研究と評論。編書に『能楽・文楽・歌舞伎 日本の伝統芸能への誘い』(教育芸術社)、共編著に『カブキ・ハンドブック』(新書館)、『映画のなかの古典芸能』(森話社)など。「朝日新聞」で歌舞伎評を担当している。

中央区文化財サポーター協会とは

中央区の養成講座修了生で構成されたまち歩きのボランティア団体で、歴史・文化・伝統ある中央区の史跡・旧跡・名所など、とっておきの見どころを楽しく、親切にご案内しています。

きほんの講座 ①－③

定員20名（10名は中央区、10名はボランティア・区民活動センターで募集）

◆耳をかたむけて寄り添う “傾聴講座”

主 題 人と人の繋がりが希薄になっている現代、情報に溢れていても孤独や孤立を感じ、つらい思いをされている方がおります。「傾聴」には、“相手の気持ちに寄り添って、相手の心を聴く”という基本姿勢があります。ボランティア活動においても重要なスキルである「傾聴」を学んで、周りの方とのコミュニケーションや対人支援に役立ててみませんか。

『聴く』ためにはある程度の研修が必要です。この講座は『傾聴』の理論とともに体験学習を重視していますので、実践的能力が身につく、コミュニケーション能力のアップにつながります。

※この講座は全ての回にご参加いただくことを前提に、受講生同士で体験学習を行いながら順序立てて理解を進めていきます。

講座番号 ①－③

時 間：午後1時～4時
場 所：中央区社会福祉協議会
回 数：4回
受講料：1,200円

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	9/17 (火)	傾聴を知る、傾聴を体験する	NPO法人P.L.A 専任講師
第2回	9/24 (火)	受容的、肯定的に聴く	
第3回	10/ 1 (火)	共感的に聴く	
第4回	10/ 8 (火)	講座のまとめ	

講師紹介

NPO法人パートナーシップ アンド リスニング アソシエーション(P.L.A)とは

「“聴くこと”のできる人を育てる」ため、2005年11月に発足。年間200回以上の講座を開催し、傾聴ボランティア活動の普及に大きく貢献している。高齢者のための傾聴ボランティア養成を柱とし、コミュニケーション向上のための傾聴、ボランティアのための傾聴、施設職員のための傾聴、被災者支援のための傾聴など現代社会で必要とされる「傾聴」をより受講生の立場に沿った理論と実技とを取り入れた内容でどなたにも理解できるようにプログラムされている。

会場図



ボランティア・区民活動センターでの募集 10名（8月）

定員の半数はボランティア・区民活動センターで募集します。
区内在住・在勤・在学の方がお申し込みできます。

【申し込み方法】

ボランティア・区民活動センターのボランティア情報紙「月刊キャッチボール」8月号（8月1日発行）および中央区社会福祉協議会ホームページ（<https://www.shakyo-chuo-city.jp/>）にて募集を行います。



◆伊勢・松阪商人と江戸～江戸の町、商い人たちの活躍～

講座番号 ①-4

時間：午後2時～3時30分
 場所：日本橋社会教育会館
 回数：4回
 受講料：1,200円

主 題 江戸時代、江戸の中でも多くを占めた今の中央区。そこに伊勢、近江などから多くの商い人が集まってきました。

今回はその営みを学術的なことに加えましてパソコン、スマホなどで検索しても決して出てこない学芸の世界からの観方もご案内。既に、これが当たり前、あれが常識、だけではない変様性の今、これがあっても、あれもあっても、江戸をそして商いを、ご参加くださる皆様のお考えとともに語り合ってください。

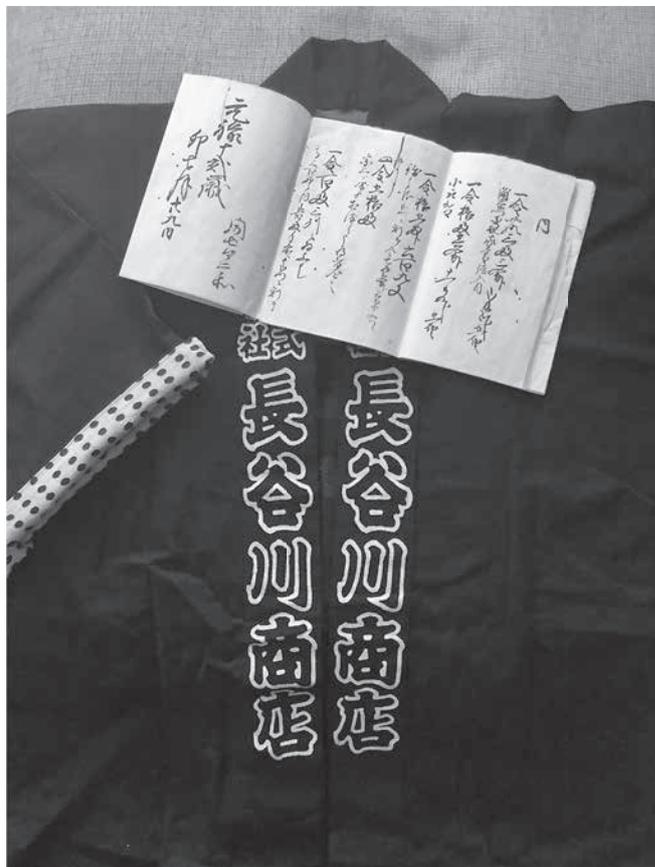
約300年前の元禄時代、日々刻まれた長谷川分家の商い簿記帳簿類を実際にお手元で江戸の薫りとともに。

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	9/20 (金)	江戸の町が奉公人を大切にす商い人に	長谷川 隆
第2回	10/ 4 (金)	本当は、つらいよ当主こそ。番頭の重用性その後、店はどうなった？	
第3回	10/18 (金)	実際、経験した行儀見習いを通して宗教、哲学、心理学してみる	
第4回	11/ 1 (金)	日本橋から近江へ鈴鹿へと縁の輪が広がって黒船来航どころではない紅茶の日	

講師紹介

長谷川 隆 (はせがわ たかし)

長谷川南家末裔（1635年（寛永12年）松阪から日本橋で創業）。学芸員。学習院大学卒業後、店掟により一族とはいえ、同じ繊維の間屋でご縁の近江商人・塚本家（現、ツカモト・コーポレーション）にて行儀見習い、丁稚奉公の機会を戴き、茶道裏千家・15代鵬雲斎宗匠夫人、登三子様好みのお着物などにも触れ、人と人の機微、商う根性を学び、「商い、人生は減私喜捨、地動説」を学び説く。創建・749年（天平21年）松阪・清光寺研究員でもある。



長谷川商店半纏に元禄分家帳簿

◆画廊へのご招待

主 題 中央区には多くの画廊があり、多種多様なアートを発信しています。この講座は、画廊に興味はあるけれど入りづらいと思っている方を対象に、ギャラリストによる様々な美術の楽しみ方のレクチャーと画廊めぐりを実施します。講座を通じて、画廊の魅力を感じていただけます。

企画・協力：銀座ギャラリーズ

講座番号 ①-5

時 間：午後6時30分～8時
 ※第3回は午後2時～3時30分
場 所：築地社会教育会館ほか
 ※第3回は現地集合・現地解散
回 数：3回
受講料：900円

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	1/16 (木)	ギャラリスト×百貨店美術部 「美術品との出会い方」	佐々井 智子 <ゲスト>高木 啓伍 河村 和俊
第2回	1/23 (木)	銀座の画廊と岡本太郎	大杉 浩司
第3回	1/25 (土)	銀座の画廊めぐり	野呂 洋子

講師紹介

佐々井 智子 (ささい ともこ)

SASAI FINE ARTS 代表取締役。東京生まれ。1986年よりギャラリーの仕事に携わり、若手作家の展覧会を中心に企画運営を行っている。

高木 啓伍 (たかぎ けいご)

株式会社三越伊勢丹美術部洋画・コンテンポラリーバイヤー。2009年日本橋三越本店入社、婦人雑貨営業部配属。2014年美術営業部へ異動、洋画・彫刻バイヤーを経て現職。

河村 和俊 (かわむら かずとし)

株式会社高島屋MD本部美術部担当課長。2013年株式会社高島屋入社、日本橋店美術部配属。2020年より現職に就き、展覧会の企画・運営などを担当。

大杉 浩司 (おおすぎ ひろし)

銀座画廊・美の起原アドバイザー。広島県出身。川崎市岡本太郎美術館の立ち上げから学芸員として携わり、様々な展覧会を企画。美術館を退職後、東京青山の岡本太郎記念館主任研究員を経てフリーのキュレーターとなる。著書に『岡本太郎に出会う旅』（小学館）など。

野呂 洋子 (のろ ようこ)

株式会社銀座柳画廊副社長。大学を卒業後、IT企業に就職してエンジニアとして8年働く。大阪梅田画廊の野呂好彦氏と結婚後、夫婦で銀座柳画廊を起業して今年で30年。主に、財務、経理、広報、人事を担当する。泰明小学校の画廊巡りを2006年より実施する。独自に銀座のギャラリートツアーも毎月2回、ランチを挟んで開催。幅広く、美術の普及に尽力している。

銀座ギャラリーズとは

銀座ギャラリーズは、銀座1丁目～8丁目の画廊約40軒による任意団体です。画廊の仕事や美術作品の魅力を知っていただき、気軽に足を運んでもらえるように定期的にイベントを開催しています。

春：画廊の夜会 冬：Xmasアートフェスタ

銀座ギャラリーズが監修した初の書籍『26歳会社員、絵画を買ってみた』（WAVE出版）を2023年春に刊行。



◆文楽の世界を楽しむ

講座番号 ①-6

時 間：午後2時～4時
 ※第5回は午前10時～
 午後2時頃（予定）

場 所：築地社会教育会館
 ※第5回は文京シビックホールに現地集合・解散

回 数：5回
受講料：1,500円
観劇料：8,100円

主 題 日本の伝統芸能で、ユネスコの無形文化遺産でもある文楽(人形浄瑠璃)について、その魅力を5回にわたり紹介します。

文楽の歴史から、義太夫、三味線、人形、演目の見どころポイントや物語の背景などを解説。庶民の芸能である文楽を楽しむ視点をお話します。

第1～4回の講義では、イヤホンガイド解説者が映像や資料を使い、わかりやすく楽しく文楽の世界へ誘います。第5回では、文楽公演を実際に鑑賞します。

鑑賞当日は、同時解説イヤホンガイドをご利用いただけます。(イヤホンガイド代、700円・希望者のみ)

※はじめて受講される方が優先されます。

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	1/21 (火)	文楽の歴史、約束事について	佳山 泉
第2回	1/28 (火)	文楽の三業～太夫・三味線・人形～	
第3回	2/ 4 (火)	名作演目をズバリ解説！	
第4回	2/18 (火)	観劇の演目見どころ解説	
第5回	2/25 (火)	観劇	-

講師紹介

佳山 泉 (かやま いずみ)

イヤホンガイド解説者。2007年～15年まで国立劇場文楽公演プログラムのあらすじを執筆。著書に『マンガでわかる文楽』(誠文堂新光社)、『ぶんらくの本』(共著、日本芸術文化振興会)、『かぶきの本』(共著、日本芸術文化振興会)。文楽巡業公演プログラム「文楽を覗いてみよう」コラム連載中。